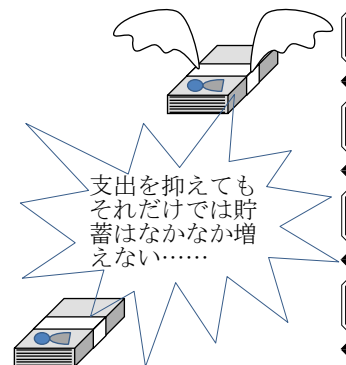




老後資金 2,000 万円問題が世間をにぎわしたこともあり、「節約をしなくては」「もっと貯金をしなくては」というような意識が高まっています。一方で「節約しているのに貯金が増えない」という家庭も多いようです。実はこの「節約する＝貯金が増える」という考え方は必ずしも正しくないのです。

多くの方が「**収入 - 支出 = 貯蓄**」（毎月貰ったお金のうち月末に残った金額を貯金する）と考えていると思います。では、この算式で貯蓄を増やすためにはどうすればいいか？ 一番いいのは「収入を増やす」ことですが、それは多くの人にとっては簡単なことではありません。特に昨今は働き方改革等の影響で残業が減り、収入が減ったという人が多いという話も聞きます。次に考えるのは「支出を減らす」という事です。そこで出される考えが「節約する＝貯金が増える」という考えです。しかし、節約とはそもそもどういう意味でしょうか。広辞苑によると「節約：無駄を省いて費用を切り詰めること、儉約」とされます。でも「**無駄遣いをなくす＝同じものを安く買う**」ではないと思います。多くの方は普段 1,000 円で売っているものを特売時に 800 円で買うと 200 円節約できたと考えられるでしょう。しかし、その節約した 200 円はどうしましたか。貯金しましたか。そのまま財布に入れ、別のものの購入に充ててしまっているのではないのでしょうか？ そして、その購入したものは必要なものだったのでしょうか。そして、残ったお金を貯蓄しようと思っても財布の中には思ったほどお金が残っていないという事を繰り返していませんか？

このようなことを避けるため、本当に貯蓄を増やしたいのであれば**最初**に示した算式を「**収入 - 貯蓄 = 使えるお金（支出）**」というように考え直す必要があります。いわゆる【先取り貯蓄】の考え方です。そこで重要なのは【貯蓄用の口座を生活費の銀行口座と分ける】という事です。具体的な手法としては①財形貯蓄の利用、②積立口座の利用、③別の銀行へ毎月預金するなどがあげられます。①の財形貯蓄の利用は会社の制度で給与から天引きするものもありますし、銀行で提供している商品もあります。また、**財形貯蓄にはその目的のためにしか払い出しができない代わりに利息や利子税が優遇されるという貯蓄目的のためのメリット**もあります。②の積立口座の利用については、銀行で提供している商品で毎月一定の額を積み立て専用口座へ振り替えるというものです。**財形貯蓄と似ていますが、解約が自由であることや利息が優遇されないという違い**があります。③の別の銀行へ毎月預金する場合は、その都度、給与振込口座から現金を引き出し、**別の銀行へ行って預金する等の手間**がかかります。ネットバンキングを利用する方法もありますが、手数料がかかる等のデメリットがあります（銀行によっては一定の条件を満たすと振込手数料が無料になる場合もあります）。しかし、**普段使わない銀行であれば、容易に預金を引き出せないという貯蓄のためのメリット**があります。その場合、**キャッシュカードを作らない等の対策**をすれば、**更に貯蓄効果が高まります**。



節約をするのは貯蓄を増やすための手段の一つではありますが、まずやるべきことは先取り貯蓄であると思います。